農工大の樹　その41

〈解　説〉

ミズキ

（ミズキ科、ミズキ属の種、学名：*Cornus controversa* Hemsl.、漢字：水木、中国名：燈台木）

この種は樹高10-15m，胸高直径30-40cmになる落葉広葉高木です。分布域は広く，南千島から，日本全域，韓国，満州，中国，ヒマラヤまでの東アジアにみられます。この種は，明るい，湿性立地に生えることが多く，成長が大変早いのが特徴です。樹形は枝が一ヶ所から何本も横に張り出し，葉が枝の上部に束状に付くなど，特異な形をしています。また，若芽が赤紫になるのもこの種の特徴で，春には白い花が咲きます。

和名は，樹液が多く，特に早春，幹や枝を切ると水が溢れるように出ることにちなんでいます。また，この種はアメリカハナミズキと同じ仲間（同じ属）です。それは葉の葉脈の状態がよく似ていることからもわかります。

この種に似た野生種としてクマノミズキがありますが，その種は葉がやや細長く，対生に付くのですぐに区別できます。この種の材は緻密で白く，丸箸や囲炉裏の自在鈎を作ったり，バット，こけしの材料として使われてきました。東北地方や長野県中北部には，小正月に餅花や繭玉をこのミズキの赤い若枝にさす風習が残っており，それらの地方ではこの種をダンゴノキと言うそうです。

（農学部教授　　福　嶋　　司）